令和７年度　第２回養老町上下水道事業経営審議会（議事概要）

と　き　令和７年９月３０日（火）
１５時００分～１６時５０分
ところ　養老町役場　３階第１会議室

【出席委員】（敬称略）
会長　後藤尚久　　副会長　安田澄雄
委員　大里裕幸　　吉田太郎　　野寺兼次　　安田正　　北村美幸
田中清博　　石黒和子　　田中とも子　森川一俊　　佐竹憲子
計１２名

【審議事項】
１．養老町下水道等事業における使用料の適正化について
●事務局説明
下水道使用料改定率を、現行の 1.51 倍に対する激変緩和として、来年の６月から、改定率 1.3 倍とする案。また、今後は下水道使用料の適正化について審議会にて継続的な検討をお願いしたい。
●質疑等
Ｑ　公共下水道の普及率と水洗化率を、もう少し詳しく教えてください。
Ａ　公共下水道の普及率は、供用を開始している地域の人口を養老町全体の人口で割った率です。また、水洗化率は、公共下水道を使用している方を供用開始の人口で割った率です。養老町で、公共下水道の地域に住んでいる方が約 24%、そのうち 70%近くの方が下水道を使用しています。養老町は他の市町に比べて率が低いということがあります。平成 30 年度に「下水道を延長しない」と、町として方針を転換したために、普及率は他の市町に比べると低く、これ以上広がらないという状況になっております。
Ｑ　水洗化率が 70%ということは、残り 30%の使える人のうち 30%の人は別ですか？
Ａ　70%というのが、公共下水道と合併浄化槽で処理をしている割合です。なお、農集・コミプラも含めて約 70%で、あと残りの 30%の方が単独浄化槽と汲取ということです。
（意見）
・もう普及率はほとんどいっぱいいっぱいで、上がる余地はないということですね。

・使える人の 98%ぐらいはもうちゃんと使ってらっしゃるということですね。

Q　普及率算出において、空き家とか引いてありますか？

A　人口割合なので、引いてあります。

（意見）

・やっぱり高齢化率が高いし、独居の高齢者も多いことを考えれば激変緩和しなければいけないのかなと思います。ただ経営的に言うと、なかなか躊躇します。それだけで簡単に済ませる問題ではないので。

・実際、経営的にはプラスになった方が多少でもいいんですが、儲けることが重要なことではなくて、生活を安定的に、水道を安定的に使える状況にあるということが 1 番ですので、事務局案は 1.3 倍ということで考えてらっしゃると思います。令和 5 年で回収率が 75%程度、今は多分 75%を若干切ってるぐらいになっていると思いますが、1.3 倍にしても 6、7 年後に、大体回収率が 80%ぐらいになっていれば良いのではないかと。80%が絶対的に良いというわけではないのですが、今 75%ぐらいですので。

・これは経営戦略の方で数値目標を、回収率を何%程度にすることを入れていただければいいと思うんですが。5 年後、令和 12 年では、このままいくと回収率が 84%程度に。ひょっとしたら 5 年後ぐらいに改定を前提ではなく、今より 10%程度の経営的には余裕ができるので、改定すべきかどうかを経営戦略で議論していただければよろしいのではないかと思います。30%アップしてるから町予算への負担も 10%減らせるということになります。

Q　一般会計からの繰入は 13 年間で 3 億 6,978 万円？

A　今、13 年間で 3 億 6,978 万円の赤字で、1 年あたり約 2,800 万円の赤字という計算になります。1.51 倍にした場合ですと、大体 1,000 万ほどという計算になります。現状のままですと 5,400 万です。

Q　大体毎年一般会計から 2 億くらい使ってるでしょ。これは維持費で、残り約 1 億 5,000 万はずっと要るのですよね。

A　そうですね、過去の下水道を推進した際、お金を借りて整備しており、その分の償還が残っておりますので、その分は一般会計から繰入という形で賄っています。今回はあくまで維持管理費の赤字を圧縮するための改定で表示しています。起債の償還利息に関しては、国の方から認められいてる基準内の繰入で払っています。あくまで今回、それ以外の、基準外と言われてる部分の赤字を減らすための改定ということです。

（意見）

・毎年の借金返済とは別に、毎年入ってくるお金と、出ていくお金の差がいくらになってるか。令和８年から令和 20 年まで 1.3 倍で続けた場合の試算で３億 7000 万ぐらいになり、13 年間の借金返済がいくらか。何年後かにまた改定、値上げをすると、そのあたりが変わってくるということですね。

Ｑ　普及率が 23.43％。これは人口減少率を加味してということ？

Ａ　普及率については、現状の数値です。使用料減少の際に、人口減少と同じような割合で使用料収入が減ってますので、人口減少は加味しています。

（意見）

・「経営効率化による人件費削減」について、人件費削減は１番見やすい効率化なんですが、削減して大丈夫だったんでしょうか？３名から２名にして普通ＤＸ化、電子化が色々進んで、人が要らなくなったので削減したというのはよくあるんですが、減らせばいいというものじゃない。減らしたらむしろ人手が足りなくて効率が悪くなるということもありますので、その辺精査していただければと思います。ちゃんとやられてきてるんだと思いますが、最終的に１人にならないよう、電子化を進めて効率化を図って、人件費を減らすというようにしていただければと思います。今回の要求改善とは直接関係ないですが、長期的な観点から考えていただければと思います。

●採決

「養老町下水等事業における料金の適正化については、今後何年かに１回審議を続けていくということで改定率を 1.3 倍にする。」

（挙手全員）

～～暫時休憩～～

【再開】

２．「養老町下水道等事業における使用料の適正化について」の答申書(案)の審議、及び広報原稿(案)についての協議。

●事務局説明

（答申書（案）について）

Ｑ　「更新需要の増加‘や’エネルギー価格の高騰‘や’価上昇の影響による」という「や」が続くんですけど、この文章これでよろしいですか。

Ａ　一つ「、」に置き換えさせていただきます。申し訳ありません。

（意見）

・改定比率 1.51 っていうのは、1.51 倍、1.3 倍なのか。「％」にすると 51％、30％増になるんで、見た目が少し大きいので、1.3 倍の方が比較的聞きやすいのかなと思っているのですが。

・町長に答申するものなので、このままでもいいのではないか。広報は変えてもいいとは思うが。

・この最後の文面を見ると、令和 4 年度予測では改定率 1.5 倍が適当であると結論に至ってますが、シビアに伝える必要もある。「1.3 倍が本当の着地ではない」ということですよね。本来ならば 1.5 倍まで結構激論しなければいけないところですけど、この使い方としては、1.3 倍が最初の着地です。だから、最後の文章は「なお、今後は下水道料金の適正化について…」というところがちょっと柔らかい感じがあるので、結構危機迫りますよということを町長にも知ってもらう意味では、「なお、引き続き激論しなきゃいけないんですよ」という、町側、町長にもその認識を持っていただくために、最後の文面を柔らかい形で終えていいのか。修正したい。

・なかなか難しいですが、そのぐらい「危機迫る感です」という意味を含めるとしたら「継続的な検討が必要であること」とかですね。答申が決まると広報も変更が必要になるかもしれません。この答申は公表される。町長だけではなくて町民の皆さんにも閲覧できるようになりますので。

●採決

「答申書(案)については、指摘された点を修正したうえで町長へ答申し、広報原稿(案)については、指摘された点を修正したうえで広報を行う。」

（挙手全員）

（広報（案））

Ｑ　近隣市町の経費回収で、養老町だけが 3 つ数値が出ている。公共下水分と農業集落とコミプラとの比較で、この 3 つは敢えてなのか、書く意味があるのか？このグラフで「養老町はこの 3 つの経費回収率になってますよ」ということでいいのか。

Ａ　公共下水道の経費回収率を掲載しておりまして、養老町の広報ですのでちょっと詳しめに記載したのですが、同じ種類ごとに並べるという意味では、公共下水道だけでもいいかなと思います。また、「現行の料金から 1.3 倍、1.51 倍」と変えさせていただきたいと思います。

Ｑ　トータルだとどれくらいになるんですか。
Ａ　63.2％です。
（意見）
・農業集落排水は非常に経費回収率が低い。「もっと上げろ」という話になるので、1本にしたほうがいいのではないか。
・コスト比率が高いのが公共下水道です。農業集落排水とコミュニティプラントは結構小さいという意味ではないけど、それも示した方がいい。平均を取ってしまうと、絶対的な金額の大きさが違うので誤解を生むことになる。
・修正できるなら修正してもらった方がいいと思う。
Ｑ　これ（広報）で周知させて、いきなり上げるのか。その前にお話はあるのか。
Ａ　まず広報でお知らせをさせていただいて、次に、条例改正が必要になりますので、議会の方でご承認いただくことになります。それをもってして、また広報になりますので、改定時期をお示しさせていただくというような形を取らせていただきたい。議会は、年度明けてからというタイミングで、大体半年ぐらいはやはり必要かなと思っています。
（意見）
・11月に出されるんですよね。「改定案」にしとかなくても大丈夫ですか？「こういう案が出ました」としておかないと。
（事務局より）
・普及率と水洗化率と2つ出すとやはり紛らわしくて分かりづらいので、普及率を無しにして水洗化率だけに訂正をさせていただきます。「今後下水道区域は広げないのか」というＱになっておりますので、この「現在…」以降の部分は「当時の下水道整備区域以外は下水道整備拡張しないという方針転換を行いました。」で終わりとしたほうがいいかと。後の文章は削除させていただきます。
（意見）
・平成30年度に、48％と広報に書いてあったと思う。だから市民活動をするのに、こんなに水洗化率が低いなら、やっぱり環境を守る活動しないといけないと思い、活動している。素人でも48％しかないことは理解できましたけど、これはもう浄化槽をやらないと、養老町は率が上がっていかないので、何も知らない者でも、理解できてよかったと思いました。
（事務局より）
・こちらは現在、この経営審議会で議論を交わしてきた内容の中の、改定

率を1.3倍にすることに至った結果を載せるということで作っています。今後も水洗化率を上げることはずっと継続してやっていかなければならないことと思います。単独浄化槽を合併浄化槽にする等も含めてやっていかなければいけないので、普及率や水洗化率は別途広報にまた載せ、その説明書きを入れた部分で足します。ただ、今回は料金改定が必要であったという内容について議論が交わされた内容を含んでるので、今回の水洗化率とかその部分はこれに載せることによって、ちょっと誤解を招く可能性もあるので、それは別途、今度は水洗化率として養老町の環境を守りましょうという内容のところで入れていくようにします。

・Ｑで「どのような経営努力をしてきたきたのか」という部分の②の一番下の「職員費が削減されています。」ここの部分は削除させていただきたい。

Ｑ　「今回の改定はどのように議論されてきたか」の部分のＱＲとは？何かのキーワードなんですか？

Ａ　これはホームページに飛ぶようにＱＲコードがあるんです。本来、ダミーかなんか入れるのですが、それがまだ用意できていないのです。

【報告事項】

１．養老町下水道経営戦略の改定について

２．上水道事業の（仮称）第５ポンプ場工事について、及び養老町上水道事業の施設更新基本計画について

●事務局説明

●質疑等

Ｑ　第５ポンプ場で高田地区は充足するわけなんですけれども、このポンプの性能っていうのは、例えば災害、火災があった時に、消防車が水を吸います。で、末端ループになって半分になってますが、使用量に応じてポンプアップをする機能を持っているんでしょうか？例えば、消火栓について、消防車が３台付きました、5㌔出しました。で、元ポンプが例えば5㌔だと３台で15㌔以上のポンプアップがあれば消火活動に支障はありませんが、10㌔～13㌔だと、共食しちゃって、もちろんループになってるんで入ってくるようにはなってるんだと思うんですが、その辺のポンプアップの能力アップは自動で上がるものなのか。その辺はどうなんでしょうか。

Ａ　第１配水区域は消火栓３栓まで、他の区域は消火栓の２栓までできるようになっているのですが、末端の監視所と呼ばれる圧力を検出してるところがあるので、消火栓使用により圧力が下がると、その分自動的に

ポンプ場が、例えば2台動いてるところを3台にする等、制御をかけておりますので、水が出るようにはなります。ただ、それは幹線の太いところであればいいんですが、例えば75㎜の小さいところを2栓とか出すと、この間の圧力は落ちますので、水が出にくいっていうことはあると思います。その代わり、周りの幹線のルートのところでは水が出るように設計されております。大きくても250、200、量が多いのは150が多いです。

【その他】

（意見）

・やる時はやらなければいけないということで、今回はやってもらってありがたいと思います。議会の方にもやっぱそういった形で説明しながら、ある程度理解してもらえるようにやってます。

・改定率1.3倍にしていただいた方が、養老町は老人が多いので、かかる費用も大変だと思う。徐々に上げることはありがたいですが、ただ人口が少なくなった場合、そういう時になると、またそれ以上にまた負担がかかるのかなと思って。それはそれで、目先のことを考えるのか、前を考えるのかでまた違ってくると思うんですけども、やはり少しずつでも上げていただく方が経済的にはいいんじゃないかと思います。

・持続可能な養老町になりますように、よろしくお願いいたします。

・改定率1.3倍になって、私は、若い人たちが少しでも負担軽くなって、その後また私たちも補填できるところは補填してやっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

・よく計算されて、しっかりやってくださってることがよくわかります。これからもよろしくお願いします。

・なかなか難しい問題でございました。今後とも協力できるとこはしていきたいと思ってますので、よろしくお願いいたします。

・今回改定率1.3倍ということで。但し、それだけの防災とか色々ありますが、破損した場合、突発的なことがあると思いますが、今の中で、その事前にそういったことに対する方向性も示しておいてほしいと思います。

・全ての自治体は本当に困っている。異論はないと思うんですが。日本は、上下水が本当に整備されてると思いますし、水の質が良い。それはやっぱり我々実感して、いい国だということを注意することはあっていないんだと思いますけれども。基本的には、コンパクトシティにして、人口集めて集約する、そうしないとお金いくらあっても自治体は持たな

いと思う。基本的なことを国も考えなあかんし、自治体もどうしていくかというのもやっぱ考えていかなければいけない。高田の街中も空き家ばかりでどうしようもない。下水管は引っ張ってあるし、上水道は引っ張ってあるので来てもらえばいいんだけど、問題は地主。その辺りは行政がやっぱり主体的にやってもらいたいなと。よろしくお願いします。

・改定率1.3倍という決定で、直接的に支払う費用が増えるという観点においては大変なことに違いないですが、これは未来の養老町に向けての住民の意思決定で、若い子たち、これから生まれる子供たちにとって、やっぱり持続的な町で、こういう意思決定をしたということを、全部がネガティブじゃなくて、ポジティブな捉え方をするというのも重要かなと思います。

・もう1つ出ました、その下水道普及率24%弱の自治体なんですけども、「それだけしか普及してないんじゃないか」ではなくて、24%ならそれだけコンパクトに、逆に考え易い自治体であるはずですから。他の市町が持ってるような下水道設備ではない。今経営戦略をこれから考えてらっしゃるわけなんですよね。設備がもしかしたら不要かもしれない。もうそのコンクリートで全て舗装しなくても、ある程度原価を抑えられるような設備で運用するとしたら、もしかしたらかなりコストを下げられるかもしれないというような、経営戦略の非常に大事なポイントになるのかなと思います。

・もう1つだけ申し上げると、今いろんな技術革新も起きています。エネルギーの効率、資源循環、ＤＸ等で。実はこの下水道処理にまつわるところでも、いろんな技術革新で、排熱の利用や、リンは肥料になるんですよね。コストセンターでありそうなこの処理から、もしかしたら地域から価値を生み出せる可能性もあると思いますので、抜本的にそのことを考えて、そして私たちもこういう意思決定をしたっていうところで、その大事な機会だったのかなという形で今回参加させていただきまして、ありがとうございます。引き続きよろしくお願いします。

・下水の関係はですね、皆さん議論いただいて、あえて1.3倍ということになりましたわけでございますけど、下水だけじゃなくて、この上水の管もかなり年月が経っておりますので、また入替、耐震化に向けてもやっていかなくてはならないと思っておりますし、それが1番必要だと思っております。実際によく水が濁るとかがある。それもやっぱりそれだけの老朽化してるからの点もございますので、それもまたこれから一緒に考えていかなきゃならない問題かなと思っておりますので、その時は私も一緒にまたやっていきたいと思います。

・皆様のご意見、非常に参考になりました。やはり生活に密着された方がいろんな思いをと言いますか、出していただいていて、非常にいい会議だったと思っております。何度も言ってますが、これで終わりではないので、また色々な場面でこの経営審議会が開かれると思います。この次がまた皆さんのご自由な意見を出していただいた方が、町の進む道を決めるということになると思いますので、今後とも皆様よろしくお願いいたします。ありがとうございました。